

原爆放射能医学研究所とインド国

国際交流に関する協定の締結について

原燃力資源研究所 油学会研究部
錦田七男

フレドリック
植物病害・予防研究所

フレドリック植物病害・予防研究所は、インドのマドラス市郊外に位置し、一九七九年に創設されたインド有数の規模と内容を持つ研究所である。研究所は、六研究部門、動物飼育施設、二十三haの実験農場を持ち、植物の病害とその予防薬の開発ならびに人体への影響を研究し、一方ではマドラス大学の大学院コースの指定教育機関の一つとして研究者育成を行つてゐる。

協定締結までの経緯

協定締結までの経緯を簡単に記すと、フレドリック植物病害・予防研究所の現所長である P. Bala Krishna Murthy 博士は、一九八二年一月から一年三ヶ月間、文部省外国人留学生として広島

一九九一年十一月 私が学術研究調査のための三回目の訪印の際、フレドリック植物病害・予防研究所の会長から広島大学原爆放射能医学研究所とフレドリック植物病害・予防研究所の研究所間交流計画が求められた。これを受けて同年十二月より広島大学本部国際交流課の指導を受けながら協定文書案の作成を行った。協定文書の案文について数回のやりとりの後、一九九二年七月、原医研教授会で承認され、所長の署名を得た。同年十一月三十日、マ再度、学術研究調査に訪印した折、マラホテルに於いて

大学原爆放射能医学研究所で細胞遺伝学の研究指導を受け、二つの論文を上げて帰国された人である。彼は、その後フレドリック植物病害・予防研究所の研究員、準所長を経て、一昨年、所長となり、六部門、三十六名の科学者、四十五名の一般職員をまとめて研究の推進に努力している。



1992年11月30日、マド拉斯市コンネマラホテルにて行われた協定調印式（中央…筆者）

このたび、北海道大学助教授鈴木賢氏（『現代中国相続法の原理』「成文堂、平成四年」）と共に、第四回の尾中郁夫・家族法学術奨励賞を受賞した。研究や教育の場において、教職員各氏に助けられ、学生諸君に励まされた結果であり、お礼を申し上げます。

したものである。離婚のときに妻が困窮するのは、ふつう婚姻中の夫婦の役割分担の帰結であろう。そうだとすれば、離婚のときの財産分けは、役割分担の利益・不利益を調整するものでなければならないと考えた。

昨年度の後期に、法学部（昼間部および夜間部）において、民法四部特講という講義を開き、そのような話をし始めた。今年の後期にも、離婚法改正

尾中・家族法學術獎励賞は、日本加除出版の前社長であった故尾中郁夫氏により平成二年に設けられた。この賞は家族法関係における顕著な業績を挙げた新進気鋭の研究者に授与されていく。第四回を迎えたこの賞は、本年五月二十八日、法学部助教授 鈴木眞次氏の『離婚給付の決定基準』（弘文堂、平成四年）に対して授与された。

上記のテーマにつき 鈴木氏の入柄そのままに、明快で誠実な決定基準を提示している。最近、法務省により「婚姻と離婚制度の見直し」が審議・検討され、広く意見が求められているが、同氏の提案は、民法改正のために有益な基準を提供するものである。

なお鈴木氏は朝日歌壇に時々その名を拝見する歌人でもある。

尾中郁夫・家族法学術
奨励賞を受賞して

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a suit and tie. The photo is set against a light background.

尾中郁夫・家族法 学術奨励賞とは

の動きをにらみながら もう一度開講する予定である。

本書は 同氏が平井宣雄教授の指導の下に東京大学に提出した博士論文をこの著者のものである。この文は、

協定の内容と今後の運用

ノック植物病害・予防研究所会長の調印と双方の国際交流コーディネーター調印を行つた。

をニューヨークにある全イングランド医学研究所の Dr. Pant とマドラスにある癌研究所の Dr. Shanta との共同研究を行つて、いたが、フレンドリック植物病害・予防研究所に Dr. P. B. K. Murthy 博士が居たため、相手側との事務打ち合わせ、研究の進行状況の把握など国際学術研究の推進に大いに寄与してくれた。この間、一九九〇年には彼の弟子にあたる Dr. Ahmed Mansoor を大学院三年目より一年半、我々の研究所に受け入れ（文部省外国人留学生として）、彼のこれまでの研究にさらに分子生物

の提出を行い、彼は無事博士号を得た。また、一九九三年一月には Mr. D. Chendil を同様に我々の研究室に受け入れ、技術の習熟、博士号の完成に努力してもらっている。インドでは現時点でも相当量の殺虫剤等を用いて農業生産を行っており、その影響と思われる身体障害がみられている。我が国では老年層に多い骨髄異形成症候群がインドでは二十才以下の若年層に多くみられており、慢性骨髓性白血病も三十才以下に高頻度にみられている。これらの研究課題についてはフレドリック

以上のように本協定は十年以上にわたる研究者間の付き合いと相互の信頼を基盤として自然発生的に研究所間の共同研究へと進展してきているもので、これからより幅広い国際交流、実りある研究成果が期待される。

おわりに

おれい

なされていくべく準備中である。

学的手法で解説を加えた後、
学立論文
植物病害・予防研究所との国際共同研究